
坂の上の街

玲於奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

坂の上の街

【Nコード】

N9648Z

【作者名】

玲於奈

【あらすじ】

彼は、そこに住んでいた。

「坂の上の街」。

最近のブームで、住所の特異性に気づく。

これは、ある平凡な男の数奇な人生を描いた自伝的小説です。歴史小説風に似せた、人生変遷記です。ぜひご一読ください。

プロローグ（前書き）

NHK司馬遼太郎氏原作「坂の上の雲」最終回見させて頂きました。12月31日再放送の予定だそうです。私は、その前の203高地、ついに山頂を占領し港に向かって万歳するところは思わず泣けました。

そんな感動を与えてくれた、日本を代表する大作家 司馬遼太郎氏に敬意を払いながら、氏の作風のオマージュを作りたいと考え、この小説を書き始めました。

引用文は、冒頭一文のみです。引用をお許しください。

そして、おこがましいですが、作風をお借りしながら自分自身について自伝的小説にしたいと思います。一部フィクションも入ります。それではご覧くださいます。

プロローグ

まことに
小さな国が、
開化期を
むかえようとしている。

司馬遼太郎

坂の上の雲（一）

文春文庫より

「坂の上」

あなたなら
ここからどんな事を
イメージするだろうか？

ここから始まる

坂の上の街、

その街は、
意外なことに、
日本でたった一つの街
だったのです。。。

おかしいかな、
これが、坂上町となると

愛知県豊田市 坂上町
同 瀬戸市 坂上町
岐阜県多治見市 坂上町
静岡県磐田市 坂上町

次々と出てくる。

ところが

坂の上はただの一つ。

坂の上の街。

一見つながりのない言葉。

しかしながら

実はこれが、

彼の人生の一転を示すかのように

ある平凡な男の

数奇な人生である。

非常に平凡で

ごく普通の人物が

人生の転換点を

迎えようとしている。

プロローグ（後書き）

この小説を選び、のぞいて読んでいただいております。少し固そうな話ですが、2話からくだけて回想になっていきます。プロローグとして3話までお付き合いいただけたら、ありがたいです。

不心得（前書き）

なし

不心得

秋山 淳は、

故郷

ふるさと

FUKUSIMAを

捨てたものである。

古来、

長男というものは、

昔から家を護り、

あるいは栄えさせ、

そして、

墓を守るものとされている。

その長男という立場を

簡単に

反古にした。

相当の決意があったのだろうか。

否である。

秋山 淳の職業、

それはフリーターである。

保守的な環境

特に、田舎において

それは、

決定的に不心得と

なってしまう。

親や兄弟に

迷惑がかかるのだ。

今でこそ

世間に認知されるようになったとはいえ

世襲がからまった農村地帯において
そこに選択はなかった。

おもしろいことに

岩波国語辞典第六版では

このように定義されている。

「フリーターとは、

自由であることを、

あるいは、自由な時間を

確保しようとして

定職につかず、

アルバイトで

生計を立てる人の

ことをいう。」

とある。

不心得（後書き）

なし

赤鳥居（前書き）

なし

赤鳥居

つづけて

「日本語でフリー、

ドイツ語でアルバイトとを
組み合わせる

作った

「フリーアルバイト」
の略。」

と結ぶ。

自由であることを、

あるいは自由な時間を
確保しようとして・・・

その意味の通り

自由を愛する男であった
しばれるのは

嫌いであった。

知る人は、

発想が豊かと言った。

又別な人は、

型破りとも言った。

そんな

彼が苦悩していた。

彼は、
幼少の記憶が
定かでない。
それは、
意図的に消し去ったとか
見事に思い出さないように
しているとか・・・

しかしながら
母に連れられ
赤鳥居をくぐり
白い玉砂利が
敷き詰められた
神社を
参拝した時のことを

彼は玉虫色のごとく
覚えている。

赤鳥居（後書き）

なし

源 頼朝（前書き）

なし

源 頼朝

今、思えば、

それは

唯一の

黄金時代

だったかもしれない。

源頼朝にまつわる

由緒ある寺社

スーツ姿の父

その肩車で

山門をくぐり

境内では

千鳥模様の

真っ赤な着物を着た

母に

手をひかれた

七五三。

それは

幸せな家族。

何かの本に

はさまれ

忘れられた

1枚の写真。

写真の

男の子は

生意氣そうで

実は

境内を走り

叱られ

半べそ。

その写真。

男の子

一人。

色あせた

しかしながら

どこか

懐かしい写真。

彼は

写真の事を

おぼろげに

感じていた。

神社近くに

通っていた保育園がある。

市立

保育園であった。

名は

第三保育園といたた。

源 頼朝（後書き）

本年はこれで掲載終了となります。
新年元旦より掲載を開始致します。
みなさま、よいお年を。

第三保育園（前書き）

なし

第三保育園

保育園は

山をきりくずし

建てられた。

つつじの

植えられた斜面を

登ると

そこは、

山のとっぺんだった。

180度

街が一望できた。

爽快な場所である。

丘は

季節に応じて、

春は、よもぎ。

秋は、すすきが

咲き乱れる。

彼をはじめ

園児ら

お氣に入りの場所

あった。

彼は

夕暮れに
じつとそこから
街並みを
見るのが
好きであつた。

丘の道を通つて
母がこぐ
荷台に乗つて
何度もその風景を見た。

幸せな日々。
その大切な幸せの日々も
続かず、
父と母の關係に
暗雲が立ちこめたのは
彼が保育園を
卒園する年であつた。

第三保育園（後書き）

新年よりのご購読まことにありがとうございます。
本年もぜひお引き立てのほどを。

地価狂乱(前書き)

なし

地価狂乱

淳は、小学校に入学した。

世相は、地価狂乱。

拝金主義がはこびり。

濡れ手で粟の成金が

あまたに出て、

社会を賑わしていた。

幸運というべきか、

淳が入学した校区は

その社会とは無縁の

開発に取り残された

いや、忘れられた地域で

あった。

市の役人は、

必ずやニュータウンになると

ふれこみ、

その先見の明を

自負していたが

淳が再びその地に

現れる

10年後も

その姿は変わらなかった。

人は、後年

交通網から

離れ

開発からの

空白の土地であった。

と言った。

学校の周りは

まったくの

野っ原で

遠くに

申し訳なさそうに

工場が1つ立ち。

煙がまつすぐに

空に

伸びる程度であった。

小川がながれ

子どもたちは

いびつな田んぼ脇の

通学路を

集団になって

登校した。

今思えば、

里山であった。

地価狂乱(後書き)

なし

したきりすずめ(前書き)

なし

したきりすずめ

自然あふれる
細い路地があり
竹やぶがあり、
地価狂乱のご時世に
都下にこのような
場所があるとは驚きであった。

まさに、奇跡である。

話が前後するが、
淳には、保育園時代から
放浪癖があった。
自分がこうと決めたら
決して
それを曲げなかった。

研究がすすみ
今でこそ
ADHDなどと
英語で言われているが
園の先生は
その感情の激しさ。
起伏の激しさに
何度、
手を焼いたことであろう。

しかしながら、

その起伏の激しさが
思わぬ

産物をもたらしたのも
あった。

「芝居」である。

保育園では、

秋にそれぞれの組が
劇を発表する催しがあった。

淳がいる年長は

「したきりすずめ」
であった。

時代は、21世紀と

言われはじめているのに
なんとも

古風な演目であった。

したきりすずめ(後書き)

なし

策士（前書き）

なし

策士

なぜ、彼がその役を
引き受けたか、
のせられたか、はめられたか、
今となっては
誰にもわからないが

淳は、したきりすずめを
熱演した。
しかも、
正直者のお爺さんが
彼の役であつた。

多くの園児たち
あるいは
先生方も
誰しもが

「悪いお爺さん」
それが淳に
ぴつたりであろう。
役を地でいく
劇になろう。
と

予想していた。

正直者のお爺さん。
ふたを開けてみれば

淳は好演した。

園に

策士がいた。

それしか考えようがない
展開であつた。

発表にあたっては

多くの保護者から

拍手喝采をあびた。

そこに

父の姿があつたかは

わからないが

母は、

ひっそりと

小さな園の体育館の

入り口から

その熱演を

みて

一人

目頭を熱くしたらしい。

策士（後書き）

なし

諸刃の剣（前書き）

なし

諸刃の剣

役になりきる。

役、そのものが
彼の人格になる。

そこまでして

彼はのめり込む
タイプであつたのだろう。

たくさんの

歓声や拍手をあびながら
それが

当然としたげんで
いた彼がそれを
物語っていると
思われる。

とても

不思議なことに
発表会後も
淳はその役を
演じ続けた。

子どもとは

このように
かくも

純粋なものであるものか。

ましてや

幼少期において

その子を導き

さますれば

一生を左右するやも

しれない

保母という

職業は

大変な職業といえよう。

淳のその

諸刃の剣の

ような性格が

爆発する時が来る。

諸刃の剣（後書き）

なし

重い扉(前書き)

なし

重い門扉

それは、
卒園間近の
うらかな春、3月の
事であった。

淳は、保育園を
脱走するのだ。

今から考えれば
広大な園。

正面の門扉も立派で
鉄の、
大人が押ししても
びくともしない
レールを
転がる門扉。

彼は、
律儀にか
自分の幅だけ
動かし
脱走した。

あわてたのは
先生だ。

はじめは

いつも隠れる
お氣に入りの
園庭の
ツツジにでも
隠れたのだろうと
思われた。

が、

受け持ちの
若い三谷先生が
そろそろ
頃合いと
なだめに
行ってみても
そこには
まったくおらず

これは
困ったということ
園内中探すが見つからず
門扉が少しだけ
開けられていることから
騒ぎになった。

今で言えば
はや警察だと
目の色が変わるところで
あるが

里山の残る
のどかな土地柄。

先生方が
必死に探したそうだ。

何かあつたら。

そう先生方は

思いながら・・・

よもや園長先生、

三谷先生は

生きた心地がしなかった
であらう。

重い扉（後書き）

なし

卒園式 答辞（前書き）

なし

卒園式 答辞

小一時間探して
淳が見つかったのは、
保育園とは
目と鼻の先の
近所の
境内であつた。

そう

幼少の場所である。

何事もなかったかのように
白い玉砂利で
遊んでいたそうだ。

今時の子どもからは
想像もできない
度胸と
勇氣のある。
そう、

肝の据わった者である
と言えよう。

おもしろいのは
園長先生に
辞職を覚悟させ
よもや
そんな騒ぎを起こしながら

何事もなかったかのように
淳は
卒園式で
代表を務めた。

向かい合って
それを
聞く

園長先生の
心痛は
いかばかりか

誠に残念であるが
誰も

淳の暗記力に
勝てなかったのである。

そして
そういった式において
ある意味で
悪ガキは
先生方の
涙を誘うものである。

卒園式 答辞（後書き）

なし

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9648z/>

坂の上の街

2012年1月4日12時50分発行